

授業概要

皆さんが住み、暮らし、活動する「環境」について「環境心理学」は考えます。「環境心理学とは何か」ということを第2回で定義します。環境を人はどのように認知するかを大きくとらえ、次に「視覚」「聴覚」の問題を考えます。その後、「パーソナルスペース」「社会環境と文化的環境」など環境に関わる心理学に関する問題について踏み込んでいきます。「環境心理学」を学部において講義として設置する大学は少ないです。少ないからこそ、取り組みませんか。皆さんにとって、現在そして未来に役立つ「心理学」を学習しましょう。

授業計画

第1回	授業の進め方と諸注意および授業の概要について
第2回	環境心理学とは何か
第3回	環境の認知について
第4回	環境の認知1（視覚の問題）
第5回	環境の認知2（聴覚の問題）
第6回	他者環境の問題（パーソナルスペース）
第7回	社会環境と文化的環境
第8回	都市と自然にかかわる環境
第9回	防犯、安心、安全の問題
第10回	犯罪への認知の問題
第11回	環境配慮行動の促進・疎外要因
第12回	環境配慮と態度、習慣
第13回	少数派の問題（障害者、高齢者、子供のそれぞれの環境）
第14回	環境デザイン、バリアフリーの問題
第15回	環境調節の問題（どのように環境を整えればよいのか）
第16回	総まとめ（筆記試験）

到達目標

- 環境が社会や人にどのような影響を与えるのか、また逆に人が社会に与える影響とはどのようなものを理解できる。

履修上の注意

積極的な意見、質問を歓迎する。ただし、私語は厳禁。

予習・復習

資料を確認し、復習をしてもらいたい。

評価方法

授業の参加性(60%)とテスト結果(40%)をもとに評価する。

テキスト

毎回、A4の資料1、2枚程度を授業テキストとして配布する。復習がしっかりできるように授業テキストは構成する。